

第422回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 2025年10月20日(月)
2 開催場所 テレビ新潟本社
3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

小原 清文 委員長	石井 宏明 委員
大久保 千春 委員	本宮 宏美 委員
迫 一成 委員	小山 厚子 委員
杉原 名穂子 委員	浜田 泰宏 委員

会社側出席者

代表取締役社長	正力 源一郎
取締役コンテンツ本部長	河野 修三
コンテンツ戦略局長兼番組審議会事務局長	小林 健
報道制作局長	中川 幹子
報道制作局次長	須山 司
番組プロデューサー・報道制作部長	倉島 実
事務局	鈴木 英門 坂上 寿史

4 議 題

1) 番組合評

2) 「そんなわけで新潟にいます。」

2025年9月28日(日) 16:50-17:20

3) 会社報告

① 9月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

② 講じた措置、議事概要の公表 (報告：番組審議会事務局)

③ 訂正放送、取り消し放送の有無 (報告：番組審議会事務局)

4) その他

5 審議の概要

会社側からは「“そんなわけで新潟(ここ)にいます。”は、新潟で暮らす若者を応援していこうというコンセプトでスタートした番組で、今回は、自分たちが本当にやりたいことを探しながら、安らぎの場所を求め辿り着いた若い夫婦に密着しました。過疎化が進む地域で、二人はどのような価値観を持って暮らしているのか?ということにスポットを当て番組を制作しました」という趣旨の説明があった。

(委員の意見)

- 単なる移住者やUターンの紹介にとどまらず、生き方の選択肢として地方で暮らすことの意味が掘り下げられていた。
- 理想だけではなく、現実の困難さがあれば、もう少し伝えてもよかったのではと感じた。
- あたたかい気持ちにさせてくれる番組だった。新潟の良さ、魅力を押し付けることなく、自然に感じさせてくれた。
- 移住に至るまでの葛藤や不安、またそれらを乗り越えた過程についても、少し掘り下げて伝えてもらいたかった。
- 地域資源の再発見や、かつて途絶えた文化に新たな光を当てようとする挑戦に、意義深いものを感じながら見させてもらった。
- ナレーションの量が多すぎる。すべてを説明してしまっていたため、自然界の音や、インタビューをもっと聞かせてほしいと思った。
- 差し込まれる映像が美しく“谷根”という地域の魅力が存分に伝わってきた。番組ディレクターのこだわりを感じた。
- 全体的に説明が足らなかった印象。“谷根”“米山トウキ”について、最後までよくわからなかった。
- 取材対象の二人から「過疎は数ではない」といった、とても魅力的で美しい多くの言葉を聞くことが出来たのが良かった。
- 集落の中で、子どもたちがどのような生活をしているのか気になった。学校はどうしているかなど、もう少し知りたかった。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

9月……184件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会の開催日(2025年9月8日)から、
昨日(2025年10月19日)まで総務省に届け出た
訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第421回審議会では、

「ドキュメント新潟“戦禍の残影 引き裂かれて、生き抜いて”」を審議いただき、委員の意見は議事概要にて記者、制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員、スタッフに共有しました。

8 今回の第422回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支局の県内事業所に
議事概要の書面を準備します。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・第421回番組審議会議事録
- ・9月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・BPO報告(No. 281)

以上